

明日を拓く

地域の人達のよりびびり



中国横断自動車道尾道松江線のうち、無料区間として三刀屋木次インターから三次までが来年春に開通します。これにともない、本町を経由する高速バスが廃止されることになりました。町は万全の対策をとるとは言っていますが、利用者は不安を抱えています。

長年にわたり赤名駅を守り続けてきた坂根佐津枝さんにインタビューしました。

問 赤名駅に勤めてから何年になりますか

答 昭和53年から赤名駅で仕事をしてきたので34年、もうそんなになるかねえ。

以前は合銀のところに駅があったけれど、あそこからここへ出てきたの。

前はもつと待合室が広くてお客さんも多かったけれど、今は狭くなってしまいました。

問 これまでで一番思い出に残る出来事は

答 それは今回バスが廃止されることよ。それが一番の重大事件。

それと、よくバスの中から手を振る人がいるよ。誰かわからないけれど私も手を振るの。それが心に残る出来事。

問 バスをよく利用するのはどんな人達ですか

答 中山間地域研究センターのお客さんや大学の先生。ほかに、OJK(旧大阪樹脂加工)や中国電力の方がよく利用されるけど、高速バスが無くなったら、どうやってここに来てんかねえ。

広島や松江へ行くのに乗り換えするようになるらしいけど、お年寄りや足の悪い人にはつらいよ。



町の人たちと(右側が坂根佐津枝さん)

問 駅をいつも利用する人がいると聞きますが

答 沢山おられるよ。椅子が3つしかない待合室だけれど、買い物に来た人が、ここでお茶を飲んで話をし、それから町営バスで帰るの。用事が無くても誰かが来ている。

あんた元気にしとると言ってるから聞かせるのがうれしい。

「お茶をしに立ち寄って来た人はこう語った」



ここが無ければ困るよ、何とか残せんかねえ。三次の眼科に通つのに路線が代わって、眼科は見えてるのに段々遠くへ離れていつて難儀したことがある。三次行きのバスはどうなるの。

乗り換えがあるようでは、年をとつてからは松江へよう行かんよようになるねえ。

町外の高校に在学中、夏休みに家に帰るのが楽しみで、赤名駅にバスがつくと、親が迎えに来ていて、うれしいけど照れくさかったなあ。

夏休みが終わる頃には、またバスに乗って高校へ帰るんだけど、涙かしくて下向いて、坂根のおばさんが手を振ってくれるんだけど、ちゃんとおばさんのほうが見れなかつた思い出があるの。

坂根さんはこんなシーンを見守り続けてきたんですね。バスを利用する人の施設だけれど、地域の人達と深く結びついてきた赤名駅。収益性だけでなく、町民はきめ細かな対応を望んでいます。

表紙の写真



編集後記

来年春には中国横断自動車道の掛合吉田インターから三次まで運用を開始される。合併前の頓原、赤来両町と吉田村の立場が逆転し、国道54号の交通量激減が指摘されている。かつて、広島浜田を結ぶ国道261号は、中国横断自動車道広島浜田線の開通により、交通量が十分の一に激減した。しかし、現在の邑南町は日本一の子育て村として、また毛利元就の軍資金銀山の町としてまちづくり成果をあげている。

そこで本町だが、大國主ゆかりの琴弾山、志津見での縄文土器出土、野見宿禰の本願地、赤名城にまつわる戦国ロマン、銀山街道、日本初のワイン醸造など歴史文化の豊富な資源を持っている。さらに、山陽エリアでの知名度は県内市町の中でも高い。

ピンチのときこそ良い考えが浮かぶものだ。今の状況をばねにし、全町が心をひとつにしてこの難局に立ち向かえば、必ず大きな成果を得ることが出来る。みんなで協力してまっすぐに取り組み、成果を分かち合おうではないか。

議会広報編集委員会

門 眞一郎



赤名駅

「今年の出来はどうかいね。」「思うたよりはえーでえ。」向こうの田の稲穂を眺めながら話す二人の姿は、どこか余裕が感じられ、威勢良く粉に処理していくコンバインのエンジン音にも勝る声がかかります。この田にたわわに実ったコシヒカリは、飯南ブランドで市場に出荷されていきますが、良質な米としての評価と市場性がどんどん高まっていけば、農家で水田比率が高い地域は豊かになっていきます。

今年は稗とりが大変だった分、収穫には大きな手ごたえが感じられます。